



▲修了証書と鉢植えの花が贈られました

日吉町地域の高齢者および女性を対象とした生涯学習推進事業、日吉福祉大学・紅が丘大学の閉講式を、南丹市日吉町生涯学習センターで行いました。

平成18年度の受講生は、323人（福祉大学262人、紅が丘大学61人）。教養文化・人権・体育などの講座のうち、必要単位数を受講した学生には修了証書と鉢植えの花が粟路静夫学長から贈られました。

（3/23・日吉福祉大学・紅が丘大学閉講式）

「共に生き、共に学んで教養を高めよう」

南丹市教育委員会が主催する生涯学習フェスタが、南丹市美山町文化ホールで開催され、およそ300人が参加しました。フェスタでは、滋賀県の寺院三寶院さんぼうえんの栢木寛照住職による「世の中当たり前はない！」と題した講演が行われ、「教えられることだけでなく、自分が感じる事が大事」と話されました。この後、美山町文化協会の発表会が行われ、地域の各サークルが多彩なステージ発表を披露。また、手芸や書道などの作品が会場に飾られ、訪れた人々も足を止めて見入っていました。



▲栢木住職による講演

「多彩なステージと作品を披露」

（3/4・南丹市美山町生涯学習フェスタ）

「たくさんのお祝い出ができました」

（3/23・美山山村留学センター退所式）



▲8人の児童が退所しました

3月23日、平成18年度の美山山村留学センター「四季の里」の退所式が行われ、8人の児童が、1年間生活をした山村留学センターから巣立ちました。山村留学とは、小・中学生が一定期間親元を離れ、山村の留学センターや里親家庭で生活しながら現地の学校で学ぶもので、旧美山町では平成10年から知井小学校で山村留学制度をスタートし、今までに69人の児童が留学しました。

「子どもたちで企画したお別れ会」

（3/18・氷所子供会「お別れ会」）

南丹市八木町の氷所子供会では、地域の中学校3年生の卒業を祝うお別れ会を氷所会議所で行われました。

氷所子供会では、子どもたち自身が活動を企画し運営されており、今回も3月で卒業する3人の先輩へのお別れ会として企画されました。

こうした活動が評価され、氷所子供会は南丹船井地区民生児童委員協議会の「こども福祉活動表彰」をこのほど受けられ、当日、民生児童委員の中川純子さんから子供会会長の藤原将太君へ表彰状が手渡されました。



▲ユニークな活動方法が評価され、「こども福祉活動表彰」を受賞